

日本説話索引 全七巻

●第()巻を申し込みます(冊)
●全七巻を申し込みます(セット)

ご住所 〒
お名前
TEL

お取り扱い

清文堂出版
〒542-0082
大阪市中央区島之内
2丁目8番5号
電話 06(6211)6265
FAX 06(6211)6492
https://www.seibundo-pb.co.jp

説話が苦手な人にこそ

金光桂子 京都大学大学院文学研究科 教授

大学院生の頃、本書の旧版にあたる『増補改訂 日本説話文学索引』は、国文共同研究室の書棚の一角で独特の存在感を放っていた。取り分け分厚いその本は、長年の使用に耐えかねて表紙は剥がれかけ、解体寸前の状態だった。何のために、どのように使うべき本なのかもよくわからないまま、これだけ使い込まれているからにはきっと役に立つものなのだろうと、気になる言葉や事柄があれば説話索引も引いてみる—というような使い方をしていた。

正直に言うと、その頃から説話というジャンルには少々苦手意識があり、敬遠しがちだった。この索引がなければ出会うことのなかったであろう説話も多い。類話の多様なヴァリエーションこそが説話の魅力であり、また難しさでもあることを実感したのも、説話索引に導かれてのことである。

その旧版の基本的な体裁を踏襲しつつ大規模な拡充が施された『日本説話索引』を初めて手にした時、まず圧倒されたのは見出し語の豊富さ、精緻さである。旧版でも見出し語の選択には工夫が凝らされていたが、説話門外漢の立場からすると、知

りたい事柄にかぎって立項されていない憾みがあった。その点、新しい『日本説話索引』は、私ごときが思いつく程度の項目はほぼ網羅してくれている。何しろ、このたび刊行される第六巻には「人」という見出し語まで立てられている。たいていの説話に人間は登場しそうなものだが、わざわざ「人」という項目に分類されるのはどのような話なのか。そもそも説話における「人」とは何なのか。思わず考えさせられた。

説話を苦手と感じる理由の一つは、その範囲の広さにある。いわゆる「説話集」以外にも、説話ないし説話的なものを収める文献は多岐に亘る。その世界に迂闊に足を踏み入れると、迷子になってしまうような不安がある。採録作品を大幅に増やした『日本説話索引』は、説話を扱う場合どのあたりまでカバーすればよいか、ひととおりの目安を示してくれた点で、誠にありがたい。

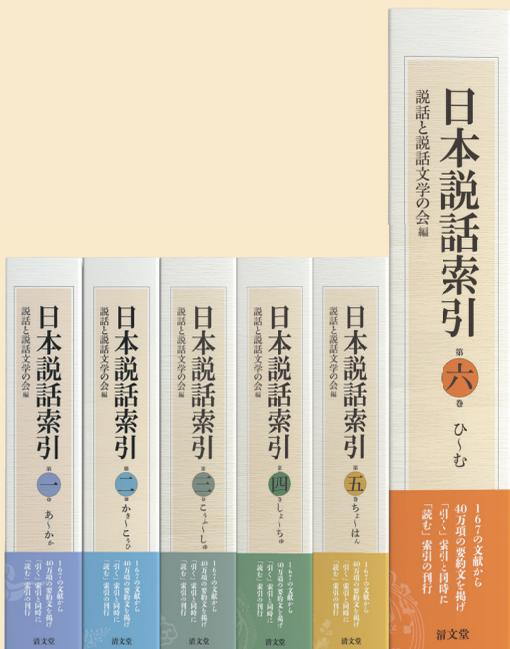
もちろん、これですべてというわけではないはずだ。採録された作品の多さは、その周囲にさらに幾重もの説話の世界が広がっていることを予想させる。そう考えるとまたもや不安に襲われてしまうのだけれど、その不安は未知の世界への期待の裏返しでもある。さしあたり、『日本説話索引』にも出ていない説話を見つけること、今後は秘かな楽しみにできそうだ。

『日本説話索引』は、説話が専門でない人、説話を苦手と感じている人にこそ、ぜひ手に取ってもらいたい書である。必ずや、自分なりの活用法、楽しみ方が見つかるにちがいない。

第六回配本(第六巻)

日本説話索引 全七巻

説話と説話文学の会編 ◆ ISBN978-4-7924-1464-1 C3591 (第六巻)



◎B5判・上製本・貼函入 総1039ページ
定価 本体 35000円+税

既刊 第一巻 あ〜かか 第二巻 かき〜こうひ 第三巻 こうふ〜しゅ
第四巻 しょ〜ちゆ 各定価 本体22,000円+税
第五巻 ちよ〜ほん 定価 本体32,000円+税
第七巻刊行予定

【編集委員】

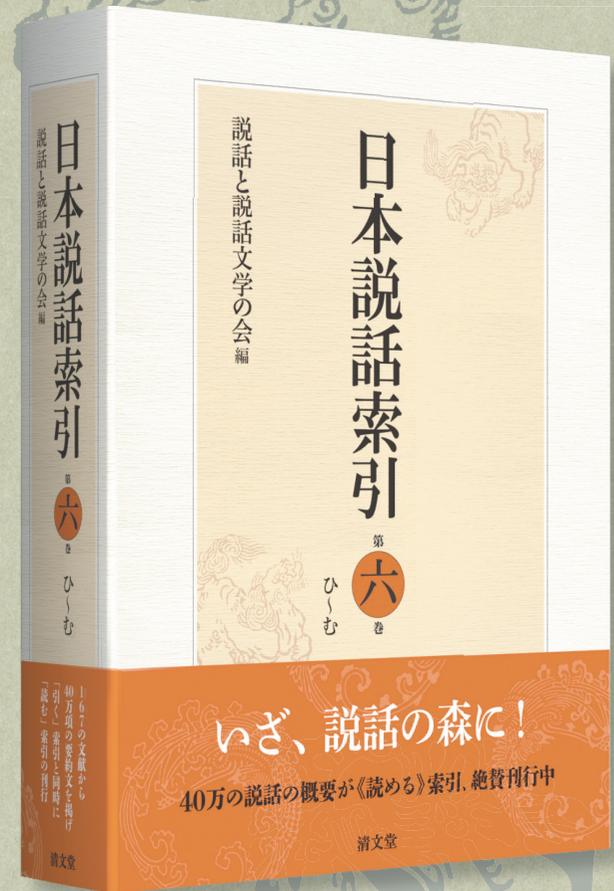
- 池田敬子 朝比奈英夫
- 出雲路修 柴田芳成
- 田村憲治 白井伊津子
- 芳賀紀雄 中畷容子
- 森眞理子 橋本正俊
- 山本登朗 森田貴之

清文堂出版

〒542-0082 大阪市中央区島之内2丁目8番5号
電話：06(6211)6265 FAX 06(6211)6492
ホームページ：https://www.seibundo-pb.co.jp
メール：seibundo@triton.ocn.ne.jp

日本説話索引 全七巻

説話と説話文学の会編 ◆第六巻 ひくむ 好評配本中 清文堂



いざ、説話の森に!

40万の説話の概要が《読める》索引、絶賛刊行中

清文堂

